

特別展 「印象派からその先へー 世界に誇る吉野石膏コレクション」



1) クロード・モネ《睡蓮》1906年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション

本展のみどころ

- 19世紀から20世紀にかけて描かれた、印象派をはじめフランス近代絵画を中心とした展覧会です。
- 山形県発祥の大手建材メーカーによって1970年代から集められ、現在では国内有数の規模を誇るまでに成長した吉野石膏コレクションは、日本の近代絵画とフランス近代絵画が主な軸となりますが、今回はフランス近代絵画を中心に紹介します。
- 28作家による72点の作品を、3章立ての構成で展示します。1章ではモネ、ルノワールといった印象派を代表する画家はもちろん、バルビゾン派のミレー、コローをはじめピサロ、マネ、セザンヌ、ファン・ゴッホを、2章ではピカソ、マティス、カンディンスキーといった絵画の革新者の作品を、3章ではシャガールをはじめとしたエコール・ド・パリの画家の作品を展示します。
- 吉野石膏コレクションのフランス近代絵画は、山形市に所在の山形美術館にて随時公開されていますが、これだけの規模の展示は通常行われていません。また従来東京を中心にコレクションは公開されてきましたが、今回の展覧会は、兵庫県初公開となります。



開催趣旨

石膏ボードを中心とした建築資材で知られる吉野石膏株式会社は、社内の創造的環境づくりを目的に、1970年代から日本近代絵画、1980年代後半からはフランス近代絵画の収集を開始しました。1991年、創業の地、山形県の山形美術館に作品を寄託し、モネ、ピサロ、ルノワール、シャガールらの作品を公開すると、市民の大きな反響を呼びました。2008年には、美術活動へのさらなる貢献を目的に、吉野石膏美術振興財団(2011年公益財団法人に移行)を設立、若手芸術家の育成や美術における国際交流の支援などにも力を注いでいます。収集の歴史は比較的新しいものの、今や日本ならびに西洋近代美術の名品を多数所蔵し、質量ともに充実した国内有数のコレクションとなっています。

本展では、19世紀半ばのバルビゾン派にはじまり、印象派を経て、キュビズムから抽象絵画へと至るモダン・アートの展開を軸に、エコール・ド・パリの多様性にも着目しつつ、大きく揺れ動く近代美術の歴史を72点の作品によってご紹介します。コレクションの中核をなすのは、モネ、ルノワール、ピサロ、シスレーといった印象派の作品ですが、その充実した内容は、この運動が果たした歴史的な重要性をあらためて私たちに教えてくれます。本展では、「印象派からその先へ」と題し、印象派の挑戦とその後の美術の歴史の多様な展開を、吉野石膏コレクションの名品の数々でご覧いただきます。

開催情報

特別展「印象派からその先へー世界に誇る吉野石膏コレクション」

会期 2019年6月1日〔土〕～7月21日〔日〕
休館日 毎週月曜日(ただし7月15日〔月・祝〕は開館、翌7月16日〔火〕は休館)
開館時間 午前10時から午後6時まで(会期中の金・土曜日は夜間開館、午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで

主催 兵庫県立美術館、神戸新聞社、MBS、共同通信社
後援 公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
特別協力 吉野石膏株式会社、公益財団法人吉野石膏美術振興財団、公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部
助成 TKG Foundation for Arts & Culture
協力 公益財団法人山形美術館
協賛 あいおいニッセイ同和損保

観覧料 一般1,300(1,100)円 大学生900(700)円 70歳以上650(550)円 高校生以下無料
※()内は前売および20名以上の団体割引料金。70歳以上は前売なし。
※早割りペアチケット：一般1,600円(一般のみ) 販売期間：3月1日〔金〕～3月31日〔日〕
※主なチケット販売場所
早割ペアチケット(電子チケット)取扱い：チケットぴあ(Pコード：769-611)、ローソンチケット(Lコード：51797)、セブンチケット、イープラス、CNプレイガイド
前売券のみ取扱い：兵庫県立美術館ミュージアムショップ
前売券・当日券取扱い：チケットぴあ(Pコード：769-611)、ローソンチケット(Lコード：51797)、セブンチケット、イープラス、CNプレイガイド、阪神プレイガイド(阪神プレイガイド)ほか京阪神のプレイガイド
※前売券の販売は4月1日〔月〕～5月31日〔金〕
※障がいのある方(70歳以上を除く)は各当日料金の75%割引、その介護の方1名は無料。
※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中に美術館窓口で入場券をお買い求めください。
※常設展示室の観覧には別途観覧料が必要です(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)。

1章：印象派、誕生 ～革新へと向かう絵画～

19世紀前半までの絵画は、いかに写實的に描くかに価値が置かれ、官主導の展覧会「サロン」での評価が重要視されていました。しかし19世紀後半のフランスでは、アトリエから離れ屋外での制作を行ったバルビゾン派や、それまで積極的に扱われなかった卑近な主題を取り上げたクールベのような画家たちが登場します。同じ頃、首都パリが近代都市へと変貌を遂げ、新しい都市の姿を鮮烈に描き出したマネがやがて出現します。

そうした中、サロン以外の発表の場を求め、1874年にいわゆる第1回印象派展が開催されました。この展覧会の出品作品は、パリとその近郊を主題に、明るい色彩と素早い筆づかいで表現され、それまでの絵画からすれば未完成に近い出来に思われました。しかし光と眼の感覚に基づいて描かれたそれら革新的な絵画は、やがて人々の支持を集めるようになっていき、今では「印象派」の絵画として人々を魅了し続けています。

本章では、モネ、シスレー、ルノワール、ドガ、カサット、ピサロ、セザンヌといった画家たちを紹介し、印象派が受け入れられるようになってからもそれに飽き足らず、やがて独自の道を歩いていく彼らの行程を振り返り、さらにはファン・ゴッホら次世代の画家たちが印象派の表現を吸収し、新たな挑戦へと向かっていく流れをも追っていきます。

出品作家

ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー (1796-1875)、ジャン＝フランソワ・ミレー (1814-1875)、ギュスターヴ・クールベ (1819-1877)、エドゥアール・マネ (1832-1883)、ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン (1824-1898)、クロード・モネ (1840-1926)、アルフレッド・シスレー (1839-1899)、ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841-1919)、エドガー・ドガ (1834-1917)、メアリー・カサット (1844-1926)、カミーユ・ピサロ (1830-1903)、ポール・セザンヌ (1839-1906)、フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890)

- 2) エドゥアール・マネ 《イザベル・ルモニエ嬢の肖像》1879年頃
油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション
- 3) ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー 《牧場の休息地、農婦と三頭の雌牛》
1870-74年 油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション
- 4) ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《幼年期（ジャック・ガリマルの肖像）》
1891年 油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション



2)



3)



4)



5) ポール・セザンヌ
《マルセイユ湾、レスタック近郊のサンタンリ村を望む》
1877-79年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション



6) ギュスターヴ・クールベ 《ジョーの肖像、美しいアイルランド女性》
1872年頃 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション



7) フィンセント・ファン・ゴッホ 《雪原で薪を運ぶ人々》1884年 油彩/カンヴァス
吉野石膏コレクション



8) ジャン=フランソワ・ミレー 《群れを連れ帰る羊飼い》1860-65年
油彩、パステル、インク、黒コンテ/カンヴァス 吉野石膏コレクション



9) カミーユ・ピサロ 《ロンドンのキューガーデン、大温室前の散歩道》
1892年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション



10) エドガー・ドガ《踊り子たち（ピンクと緑）》
1894年 パステル／紙 吉野石膏コレクション



11) アルフレッド・シスレー《モレ=シュル=ロワン、朝の光》1888年
油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション



12) クロード・モネ《テムズ河のチャリング・クロス橋》1903年
油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション



13) クロード・モネ《サン=ジェルマンの森の中で》
1882年 油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション



14) ピエール=オーギュスト・ルノワール《庭で犬を膝にのせて読書する少女》
1874年 油彩／カンヴァス 吉野石膏コレクション



15) ピエール=オーギュスト・ルノワール《シュザンヌ・アダン嬢の肖像》
1887年 パステル／紙 吉野石膏コレクション

2章：フォーヴから抽象へ ～モダン・アートの諸相～

印象派が切り開いた新しい絵画の歴史は、20世紀を迎えると一気にその変化の速度を上げていきました。カンヴァス上で展開される色彩と筆づかいが自律的な存在感を示すフォーヴィスムや、モチーフを単純な形体に還元し、それらをカンヴァス上に再構成することで三次元の事物を二次元の表現に置き換えたキュビスムの出現によって、絵画は単なる事物の再現から解き放たれ、さらには現実世界の再現によらず、色彩と形態それ自体が自律する存在をもたらした抽象絵画へと突き進みました。一方で人間の無意識の視覚化を試みたシュルレアリスムが出現するなど、19世紀までの絵画のあり方を脱却するかのようなこれら一連のさまざまな流れを、本章では「モダン・アート」と称し、同時代の画家が手がけた前衛的な作品によって紹介します。

出品作家

ジョルジュ・ルオー (1871-1958)、ピエール・ボナール (1867-1947)、アンリ・マティス (1869-1954)、アルベール・マルケ (1875-1947)、モーリス・ド・ヴラマンク (1876-1958)、アンリ・ルソー (1844-1910)、ジョルジュ・ブラック (1882-1963)、ジョアン・ミロ (1893-1983)、パブロ・ピカソ (1881-1973)、ワシリー・カンディンスキー (1866-1944)



16) アンリ・ルソー 《工場のある町》1905年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション



3章：エコール・ド・パリ ～前衛と伝統のはざままで～

前章で紹介したモダン・アートと並行して、フランスの首都パリにはさまざまな異国出身の画家たちが活躍していました。「エコール・ド・パリ」の画家と総称される彼らは、同時代に展開されたモダン・アートの影響を受けながらも、写実から離れることなく、それぞれの画家独自の作風を確立しました。本章ではエコール・ド・パリに属するこうした個性的な異国の画家たちの作品を取り上げ、20世紀美術の豊かな実りを紹介します。

出品作家

モーリス・ユトリロ (1883-1955)、マリー・ローランサン (1883-1956)、キース・ヴァン・ドンゲン (1877-1968)、モイーズ・キスリング (1891-1953)、マルク・シャガール (1887-1985)

関連事業

■特別講演会 (未定・会期中1～2回程度予定)

※詳細については、後日に当館ウェブサイトをご覧ください。

■学芸員による解説会 (予定)

6月8日〔土〕、22日〔土〕、7月6日〔土〕、20日〔土〕

いずれも16時から(約60分)

場所：いずれも当館レクチャールーム(定員100名) 聴講無料

■ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日午前11時から(約15分)

場所：当館レクチャールーム(定員100名) 参加無料

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL: 078-262-0901 (代) FAX: 078-262-0903 (代)
<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること

営業・広報担当

TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

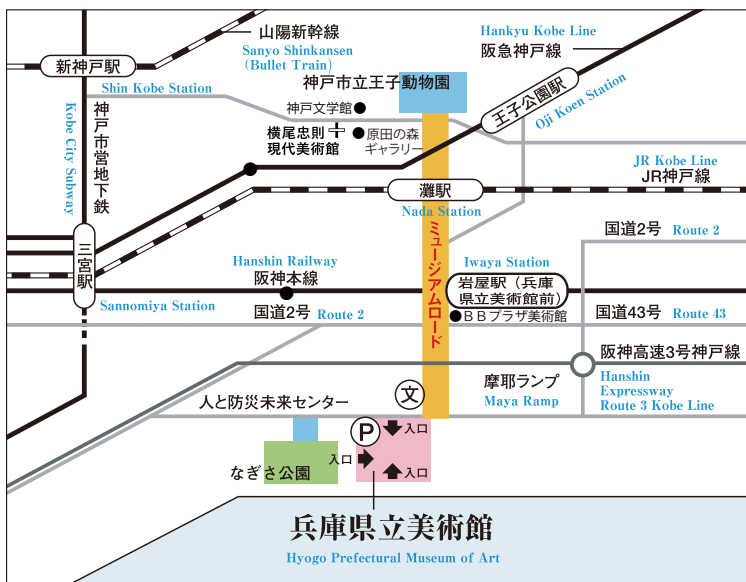
担当学芸員：相良周作、橋本こずえ

e-mail: sagara@artm.pref.hyogo.jp

TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
 *団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



画像使用に際しての注意

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

○作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年・所蔵などを必ず入れてください（ただし、取り扱われる記事の中に展覧会名を略さずに表記いただく際は、キャプションから「吉野石膏コレクション」を省略いただいても結構です）。

○作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。

○画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません（会期終了まで）。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。

○基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。

○展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。

○本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

広報画像申込書

特別展「印象派からその先へー世界に誇る吉野石膏コレクション」2019年6月1日〔土〕～7月21日〔日〕

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

- | | |
|----|---|
| 1 | クロード・モネ《睡蓮》1906年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 2 | エドゥアール・マネ《イザベル・ルモニエ嬢の肖像》1879年頃 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 3 | ジャン＝バティスト・カミーユ・コロエ《牧場の休息地、農婦と三頭の雌牛》1870-74年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 4 | ピエール＝オーギュスト・ルノワール《幼年期（ジャック・ガリマルの肖像）》1891年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 5 | ポール・セザンヌ《マルセイユ湾、レスタック近郊のサンタンリ村を望む》1877-79年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 6 | ギュスターヴ・クールベ《ジョーの肖像、美しいアイルランド女性》1872年頃 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 7 | フィンセント・ファン・ゴッホ《雪原で薪を運ぶ人々》1884年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 8 | ジャン＝フランソワ・ミレー《群れを連れ帰る羊飼い》1860-65年 油彩、パステル、インク、黒コンテ/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 9 | カミーユ・ピサロ《ロンドンのキューガーデン、大温室前の散歩道》1892年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 10 | エドガー・ドガ《踊り子たち（ピンクと緑）》1894年 パステル/紙 吉野石膏コレクション |
| 11 | アルフレッド・シスレー《モレ＝シュル＝ロワン、朝の光》1888年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 12 | クロード・モネ《テムズ河のチャリング・クロス橋》1903年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 13 | クロード・モネ《サン＝ジェルマンの森の中で》1882年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 14 | ピエール＝オーギュスト・ルノワール《庭で犬を膝にのせて読書する少女》1874年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |
| 15 | ピエール＝オーギュスト・ルノワール《シュザンヌ・アダン嬢の肖像》1887年 パステル/紙 吉野石膏コレクション |
| 16 | アンリ・ルソー《工場のある町》1905年 油彩/カンヴァス 吉野石膏コレクション |

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名：

○媒体名： (新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

○ご担当者名：

○メールアドレス：

ご連絡先 ○電話番号：

○FAX 番号：

○ご住所： 〒

○URL：

○掲載・放送予定日：

○画像到着希望日：

○読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名様分を希望

(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)